

社会的フレイルをどう評価する？

～26編の英語論文から導き出された5分類・11要素～

フレイル(虚弱)の社会的側面を表す「社会的フレイル」の評価法は確立されていません。社会的フレイルの評価を試みた26編の英語論文から特に重要な要素を抽出した結果、経済的状況(①経済的困難)、居住形態(②独居)、社会的サポート(③生活支援者の不在、④社会的サポート授受)、社会的ネットワーク(⑤誰かと話す機会、⑥友人に会いに行く、⑦家族や近隣者との接触)、社会的活動・参加(⑧外出頻度、⑨社会交流、⑩社会活動、⑪社会との接触)の5つに分類される11の要素が、社会的フレイルを評価する上で重要であることが示されました。

お問合せ先： 千葉大学大学院 博士課程 阿部紀之 n_aloe1021@hotmail.co.jp

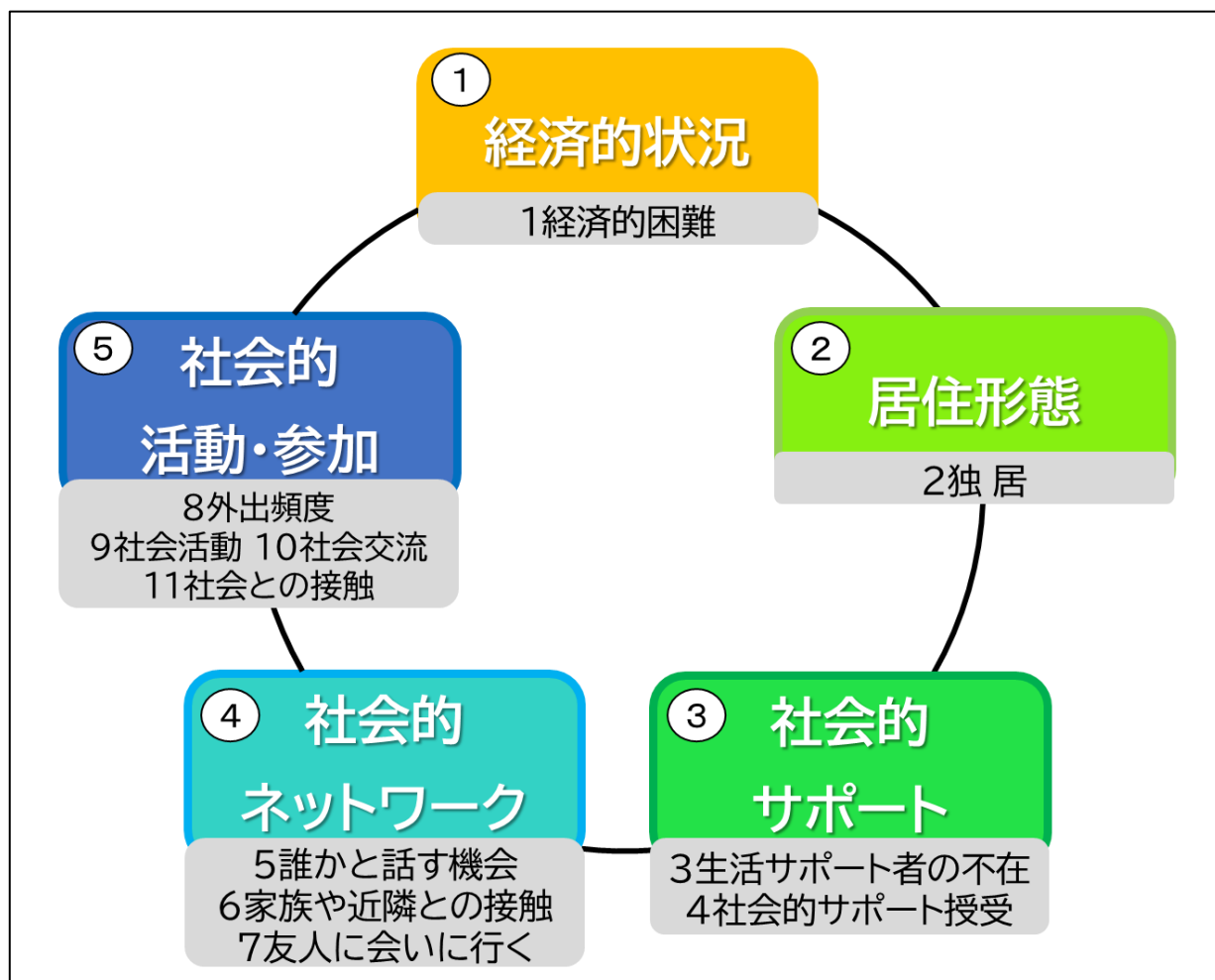


図. 社会的フレイルを表す5分類・11要素

5つの分類(経済的状況、居住形態、社会的サポート、社会的ネットワーク、社会的活動・参加)のそれぞれにグレーで示してあるものが、社会的フレイルの要素です。

■背景

フレイル(虚弱)は高齢期における生理的予備能の低下により、ストレスに対する脆弱性が亢進している状態です。なかでもフレイルの社会的側面を表す「社会的フレイル」は統一された定義や判定指標がなく、各々の研究者が独自に定義した基準を用いて研究しています。本研究では、先行研究で用いられている社会的フレイルの要素のうち、専門家の評価に基づき、妥当性のある社会的フレイルの要素を明らかにし分類しました。

■対象と方法

PubMed文献データベース検索とハンドサーチにて、社会的フレイルに関する評価指標を用いている論文を抽出しました。除外基準は、①文献入手が不可能、②言語が英語でない、③原著論文でない、④対象が地域在住高齢者ではない、⑤社会的フレイルに関する評価指標が用いられていないものとししました。

抽出した文献をもとに、介護予防分野における7名の専門家による社会的フレイルの要素の妥当性について協議しました。評価項目は、1)縦断研究で予測妥当性が実証されていること、2)介入による変化がみられること、3)加齢変化であること、4)心理的・主観的要素を含んでいないことの4つです。

■結果

26編の論文が抽出され、先行研究によって報告されている社会的フレイルの要素は全部で22要素ありました。そのうち専門家の評価により妥当性ありと判定された要素は、①経済的状況(1経済的困難)、②居住形態(2独居)、③社会的サポート(3生活支援者の不在、4社会的サポート授受)、④社会的ネットワーク(5誰かと話す機会、6友人に会いに行く、7家族や近隣者との接触)、⑤社会的活動・参加(8外出頻度、9社会交流、10社会活動、11社会との接触)の5つに分類される11要素でした。

■結論

専門家の評価による妥当性が得られた指標として、経済的状況、居住形態、社会的サポート、社会的ネットワーク、社会活動・参加の5つの分類からなる11の要素が抽出されました。今後はこれらの要素をもとに、社会的フレイルの指標作成と、その予測妥当性の検証が望まれます。

■本研究の意義

今まで統一された定義が存在していなかった社会的フレイルの指標を整理し、妥当性のある社会的フレイルの要素が明らかとなったことで、社会的フレイルに関する研究が加速し、身体的な虚弱のみでなく、本人を取り巻く社会的環境の重要性が明らかになっていくことが予想されます。

■発表論文

阿部紀之、井手一茂、渡邊良太、辻大士、斉藤雅茂、近藤克則。社会的フレイルの指標に関する文献レビューと内容的妥当性の検証。日本老年医学会雑誌(in press)。

■謝辞

本研究に際し、社会的フレイルの要素に対する内容的妥当性の評価にご協力頂きました神戸市保健福祉局、太田亜紀保健師に深謝致します。本研究は以下の助成を受けて実施しました。JSPS 科研(20H00557)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)(JP20dk0110034)、国立研究開発法人科学技術振興機構(OPERA, JPMJOP1831)